

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静岡	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111-1		
自己評価作成日	平成26年3月7日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年3月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるように畑で野菜を作ったり、地域特産の椎茸を栽培したり、職員が近所の海で釣り上げた地魚を食事にしたりしています。ケアプランに沿ったケアができるように、個々の利用者様の希望をフロアスタッフが情報収集し共有して、その方にあったレクリエーションとして散歩、買い物、ドライブなどの外出を積極的にしています。また、日々の日課の中に、個々の利用者様の生活歴や力を生かした役割を行っており、それが施設屋内だけでなく施設屋外まで使い広い視野で行っています。行事を必ず毎月季節やイベントに応じて行い、その都度ご家族様のご参加を伺い、ご家族様に協力を頂いて行事を行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から3年余、年ごとに地域との交流が発展している。運営推進会議は南北両地域から民生委員の参加を得、地域防災訓練は多数の利用者が参加して地域に介護施設の存在と理解を深めていただく良い機会となっている。毎日のように繰り広げられる庭先の井戸端会議やホーム行事の際の飛び入り参加等近隣のお年寄りとの日常的な交流は日ごろの地道な取り組みが隣人として受け入れられたことに他ならない。また利用者が得意なことが一日だけの訪問者でも分かるほどに個別の楽しみを支援する姿勢が窺える。職員は日々の研鑽により自信をつけ資格取得に成果を出しており、活気ある施設として今後が楽しみである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の意識づけを心がけ毎朝唱和している。またグループ理念は事務室、玄関、各フロアーに掲示しタ方の申し送りの際に唱和している。	利用者一人一人をよく見て理解すること、一日一日を楽しく過ごしてもらうための工夫をすることにより理念の実現を図っており、利用者の活発な様子から実践が確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	午後になると、施設前のベンチに地域の方々が集まって、その際利用者様やスタッフも加わって談話している。また、なるべく地元のお店で買い物をするようにしている。地元の祭典や清掃・行事には利用者様と共に参加をしている。	地域の老人会の方が庭先に集まりひと時を過ごしたり、ホームの行事には飛び入りで参加し共に楽しんでいる。またボランティアや子供が訪れやすい雰囲気作りがされ自然体での地域密着への取り組みがされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の地元自治会長さんや老人会の方々と交流を持つようにしています。運営推進会議に地域の民生委員2名に呼びかけ、出席して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告などを口頭だけでなく、様子がわかる様にDVDの映像で伝えるとともに、家族からの要望、意見をその後の運営に生かすように努めている。	地域の民生委員・地域包括支援センター・利用者・家族、職員と多くの出席者による運営推進会議は細部にわたり現状やヒヤリハットを報告しており、会議の目的である地域に開かれたホームのサービスの質の確保が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。また、月1回介護相談員の方が来訪され、来訪時は楽しそうに会話されている。	グループホーム地域ケア会議の支援や各種情報の配布・申請業務・必要に応じて社会福祉課との相談等、連携してサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が身体拘束をしない事を理解し徹底している。日中フロアーの窓はすぐに開けられる様にしています。身体拘束ゼロ宣言を申請した。	ミーティングで身体拘束をしないケアに関するホームの方針を共有し、日々の支援に反映している。玄関は職員の手薄な時は施錠をしているが、利用者の希望には職員が付き添って外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	悪い言葉使いや利用者の行動制限も虐待である事を会議の中で話し合い業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱を設置し、気軽に活用していただくように面会時には話している。また、来訪された時は出来るだけ多く、話をさせて頂いている。	家族は認知症をよく理解しており、利用者に関する良い情報も悪い情報も伝えて共に対応を話し合っている。顔を見に来てもらう機会を作り、質問には丁寧に答えている。	お便りやDVD等情報提供は家族から安心して楽しみとの声が多い。運営推進会議議事録は細やかに情報が盛り込まれているので欠席者への配布も期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。	管理者は利用者・職員が一つのファミリーとして壁を払い支え合うために、ミーティング時や折々に情報交換と意思疎通を図っている。結果、職員間のフォローが良くチームケアが円滑になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談をして公平に判定するようにし、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。フロアごとの勉強会も始め、実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、利用者本位のケアができる様に個別ケアを積極的に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受入を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれた場合、空室がない時は近隣施設またはその他のサービスを紹介しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、調理等の作業は一緒に行っている。ぬか床に管理を任せたりなど利用者様の中で出来ることを考え役割をもって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加していただけるように心がけている。また、「おたより」で利用者の生活の様子をお知らせし、家族との一体感が失われないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時にご自宅に立ち寄ったり、馴染みの場所へ立ち寄ったり、友人の来訪時に昔の話に耳を傾けるように心がけている。	友人や知人・昔の職場の方の訪問を受け入れ、馴染みの関係の継続に配慮した支援を行っている。また、職員が同行しお墓の掃除をしたり、年賀状で旧知の方とやり取り出来るよう図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者仲に合わせた席の検討や、散歩等へのお誘いを少人数グループで編成をしコミュニケーションが図れる関係を作っている。また、届け物をお願いしたりなどして1階と2階の交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や逝去された方、また他施設に転居された方に対してホームでの情報を提供し、その後いつでも相談に応じる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思に沿えるように、買い物、散歩、運動、レクリエーション等を実施している。	利用者と生活する中で話しかけたり介助しながら、一人ひとりの気持ちを満たすようにしている。希望や思いを尊重し受け止め、把握した内容は記録することで、本位を理解するように努め職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の他に、居宅ケアマネからの情報提供や、ご家族様からも生活歴やサービス利用歴を把握するように努め、スタッフに周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化は記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイデアを出しあい、現状に即した介護計画になる様にその都度サービス担当者会議を行っている。	介護日誌やバイタルチェック表は細かく記述されている。カンファレンスの中で利用者の変化などについて話し合い、本人・家族の要望を検討し介護計画を作成している。内容と評価に基づいて3ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さをスタッフに認識させている。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認することを徹底させ、記録の書き方の研修を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業(レンタル事業)の活用を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流をしている。運営推進鍵に民生委員の出席を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療連携を図っている。専門外医療については、関係医療機関を紹介して頂いている。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診と緊急時対応が可能な体制ができており、週1回から2回の社内看護師の訪問があり、相談などの支援がされ、家族も含めた信頼関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送り共有している。緊急時には24時間電話対応が可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは面会や電話などで毎月利用者の現状についての情報を得ている。また、ご家族との連絡もその都度とっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り体制を整えています。	終末期の対応について「生前の事前確認書」を提出してもらい、職員は利用者個々の希望を共有している。主治医や看護師・ホーム・家族と充分話し合い利用者の状態による家族の意向の変化にも6ヶ月毎に確認し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法や緊急時の対応の研修を学び、通報の判断の周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。2ヶ月に1回災害用伝言ダイヤルとツイッターを用いた連絡訓練を行い、自火報に連動したメール配信サービスを利用し全職員に情報が共有できるようにしている。	年2回消防署の協力を得て防災訓練を実施し、夜間を想定した訓練や津波対策、高台の避難場所や経路を話し合い訓練している。地域の訓練にも職員・利用者共に参加し、地域との防災組織との連携も築いている。	津波対策強化の取り組みとして更に行政への働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問のノック、羞恥心の尊重、一人一人の空間づくり、目線にあった掛け声等を行っている。	一人ひとりの思いを大切に利用者個々に合った自然な対応をしている。「自分に置き換えて考える」の周知を図り、利用者の尊厳が失われないよう言葉かけや対応に注意を払い取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いをさりげなく伺い、個別で関わり、実現を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床起床時間を決めず個々の生活リズムを尊重している。その時の体調に合わせ、ご本人様の意見や思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用をしている。季節の衣類の購入希望の時はご家族様の許可を頂き職員と一緒に買いに行き、選んで頂いている。馴染みの美容室にご家族様と一緒に行かれる方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者様の希望を反映するようにしている。買い物、調理、片付け等一緒に行っている。	ユニット毎にその日に食べたい物を考え利用者の希望に沿ったメニューや誕生日などの特別食・行事食も取り入れている。食事の準備や食器の片付けなど積極的に手伝う利用者も多く、意思を尊重しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮するとともに、キザミ、トロミ、食器類にも気を配り、カロリーコントロールが必要な方には盛り付けの工夫をしている。また、昼食前には口腔体操を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの声掛けと見守り又は介助をさせていただく。月に2回歯科往診があり、必要に応じて治療だけでなくスクレーピングなどを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握するように努めている。「できるだけトイレで排泄」を目標としている。	職員は自立支援を心掛けており、排泄表の記録を参考にしながら利用者ごとの状態を良く把握し、さりげなく誘導しトイレで排泄できるよう支援している。羞恥心への配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心掛けている。また、必要に応じて医師に相談し下剤でコントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望に沿って入浴して頂いている。冬季にはみかんの皮、柚子等を風呂に入れている。	生活歴を参考にしたり、利用者の体調や表情を見ながら本人の希望に合わせ、週2回以上・午後の時間帯に入浴介助をしている。ゆず湯や、みかんの皮を入れたりして、楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ、一人一人の習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物の提供や空調管理に気を付ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表を作り、ダブルチェックをしている。処方箋の内容や用法を職員全員が周知をし、その観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盆暮れ御彼岸には、お墓掃除ができるよう支援をしている。洗い物当番表を作成し利用者が順番にお手伝いをされている。また、ボランティアさんの協力を得たりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩やドライブに出るようしたり、季節・イベントに合わせて外出を行っています。また、ご家族様との外出もされている。	日常的にホーム周辺の池から神社など入れ替わり散歩に出掛けている。利用者の希望に添い食材の買い物に出掛け、初詣や御用邸公園・吊るし雛見学等季節折々の外出や外食等楽しみ方の支援をしている。家族と墓参りや外食・美容室にも出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーやお店に職員が付き添い、買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りや電話等にはできるだけ対応している。ご利用者様に手紙を自筆で書いていただき、文通の行き来がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁への掲示物を季節に合わせて随時変えている。エアコンや加湿器などの空調設備を利用し居心地のよい空間づくりを心掛けている。	玄関には花が植えられ、壁にはバーベキューや運動会・音楽祭の写真・習字・折り紙等利用者の作品が楽しい雰囲気に飾られ、心和む空間になっている。飾り付けや植物など季節感を取り入れている。1階と2階は行き会いお互いの交流もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにはソファを置き、団らんの場所とし、天気の良い日にはデッキに出て外気浴をしている。利用者仲に合わせて席の検討や、散歩等へのお誘いを少人数グループで編成をしコミュニケーションが図れる関係を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを持ち込んでいただき、居心地のよい生活を送っていただけるようにしている。	利用者に応じた居室が工夫されている。家族の写真や仏壇、訪れる家族の座るソファの持ち込みもあり、安全を確保して本人本位に支援している。各ドアにはコルク材に好きな絵を描いて部屋の目印にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしている。また、スタッフと一緒に料理や食器洗いをしていただいている。自立入浴支援として滑り止めや手すりの設置をしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静岡	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111-1		
自己評価作成日	平成26年3月9日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年3月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事の献立のご希望を聞き、一緒に買い物に出かけたりしています。一人ひとりに合わせた食事形態も考え、提供しています。天気の良いは、外に出て体操をしたり、散歩や買い物、ドライブ等で利用者と外出する機会を作っています。日常生活の中では、いっしょに歌を歌ったり、お話をしたりして穏やかに生活できる環境作りを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り時にしせつり年「みんな笑顔でいつもの暮らし」を職員全員で唱和している。グループ理念は事務室、玄関、各フロアに刑事している。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には進んで挨拶を交わし、地域の祭典や掃除にも利用者と参加をしている。夕方になると、ホームの庭先に地域の方が集まり井戸端会議が毎日の習慣になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の地元自治会長さんや老人会の方々との交流を持つようにしています。運営推進会議に地域の民生委員2名に呼びかけ、出席して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告などを伝えるとともに、家族からの要望、意見をその後の運営に生かすように努めている。日々の利用者の様子などをビデオに収め見て頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。つきに1回訪問相談員の方が来られ利用者で談話している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じて職員全員が身体拘束をしない事を理解し徹底している。管理者が事務室に在室中は、なるべく玄関の世情をしないように心がけている。身体拘束ゼロ宣言を申請した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	悪い言葉使いや虫、介護放棄等も虐待であることを話し合い、利用者の行動を規制しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱を」設置し、気軽に活用して頂くように面会時に話している。また来訪して下さったときは、出来るだけ多く、話をさせて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談して公平に判定するようにし、向上心をもって働けるようにし職場環境の整備に努めている。管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談して公平に判定するようにし、向上心をもって働けるようにし職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、帰宅願望の強い時にはスタッフとドライブへ出かけたりしている。ホームでの生活に馴染むまで居宅のケアマネに情報を頂き、職員が個別に対応し信頼関係を築きながら、利用者本位のケアを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受け入れを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれて空き室がない場合は、グループ内の施設や近隣の施設、またはその他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、調理等の作業の中で、本人に出来る事を探し、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加して頂けるように心がけている。また、「おたより」で利用者の生活の様子をお知らせし、家族との一体感が失われない様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には馴染みの場所へ立ち寄りたり、友人や知人の訪問時に昔話に耳を傾けるように心掛けている。電話にてのやりとりもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一体となれるレクリエーションを探し提供している。また、利用者同士の関係に配慮した席の配置をしている。お茶の時間やレクの時間を利用して1Fと2Fの交流も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、逝去された方、また他施設に転居された方に対して、ホームでの情報を提供し、その後いつでも相談に応じる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に沿えるように、買い物、散歩、運動、レクリエーション等を実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の他に、居宅ケアマネからの情報提供やご家族からも生活歴やサービス利用歴を把握するように努め、スタッフに周知している。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化等は記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイデアを出しあい、現状に即したその人らしい介護計画としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さをスタッフに認識させている。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認することを徹底させ記録の書き方の研修を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活に必要な福祉用具を関連事業(レンタル事業)を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣の商店での買い物等を通じて交流を図っている。自治会との交流もあり、運営推進会議には地域の民生委員の方も出席して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現状に申し送りし共有している。緊急時には24時間電話対応可能な体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送りし共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは面会や電話などで毎月利用者の現状についての情報を得ている。また、ご家族との連絡もその都度、取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り、体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法や緊急時対応の研修を学び、通報の判断の周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。2カ月に1回災害用伝言ダイヤル訓練とツイッター訓練を職員全員参加にて行っている。地域の防災訓練には職員が必ず1名参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時のノック、羞恥心の尊重、目線に合った声掛け等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の時間をつくって関わりを持つようにし、利用者の気持ちを引き出すように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてコミュニケーションを図り、レクリエーションへの参加を強制しない等利用者の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用をしている。スタッフとモーニングケアの時に、その日の衣類を一緒に選んでいる。男性はヒゲソリなど毎日の整容を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者の希望を反映するようにしている。また、買い物もできる限り一緒にやっている。苦手な献立の時は代用メニューを考え提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス考慮すると共に、キザミ、トロミ、食器類にも気を配っている。夏は水分表をつくり、チェックの必要な方は毎日日誌に記入し水分補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を行なっている。また、月2回協力歯科医院の往診があり、歯科衛生士から口腔ケアの指導を受けている。食後は必ず口腔ケアを行っている。必要に応じ、スケーリングも行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導に努めている。「最後までできるだけトイレでの排便」を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心がけている。また、必要に応じて医師に相談をし、下剤でコントロールすることもある。水分摂取の難しい方は手作りゼリーなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や時間等については、できるだけ利用者の希望に沿っている。季節により、干したみかんの皮やユズなどを入れて楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ一人ひとりの習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物の提供や空調管理に気を付ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表を作り、ダブルチェックをしている。処方箋の内容や用法を職員全員が周知をし、その観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作りのおやつ作りでは、各自の役割を決め、買い物から調理まで、職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。月の担当者を決めて、ご家族様にも参加しやすい外出計画も心がけている。また、ドライブを兼ねて、スタッフと一緒に足湯などにも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへ職員が付き添い、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のおたよりや電話等には出来るだけ対応している。今年のお正月は、利用者様自筆の年賀状をご家族様に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気や空調の管理等。照明の明るさに気を配り作品や写真の掲示や、季節の花を飾るように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームやその他の空間にソファを置き、自由にくつろいで頂き、団らんの場所として頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけたくさんの馴染みの物を持ちこんで頂き、居心地のよい生活を送って頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしている。また、洗濯物を干したり、取り込み、たたみ、片づけ、収納などを職員と一緒に頂いている。		